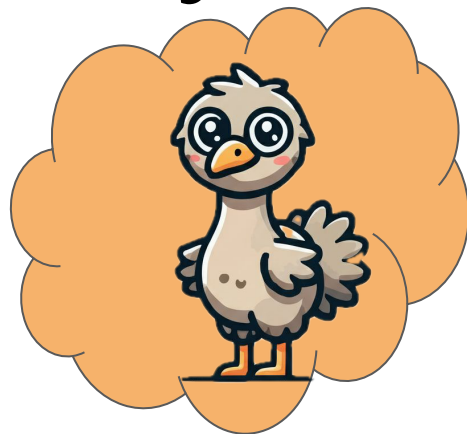


EMIU Group 4

実現性 (Feasibility)

2025-11-09

辰己丈夫

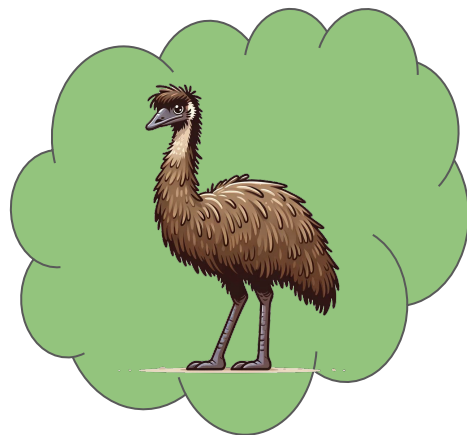


G4: 評価手法の妥当性の検証

- G1およびG2において開発した評価手法を基に問題セットを作成し、模擬試験を実施することによってその妥当性を検証する。
- 模擬試験の実施においてはTAOを活用し、
 - G3で開発をした拡張モジュールの可用性についても検証する。
- 実施した模擬試験の結果は典型的な問いと多肢選択問題の間で
 - 相関分析をおこなう。
- 受験者に対するアンケート調査やヒアリングによる分析もおこなう。
- メンバー3名:辰己、中野、谷

EMIU情報模試2025春

振り返り



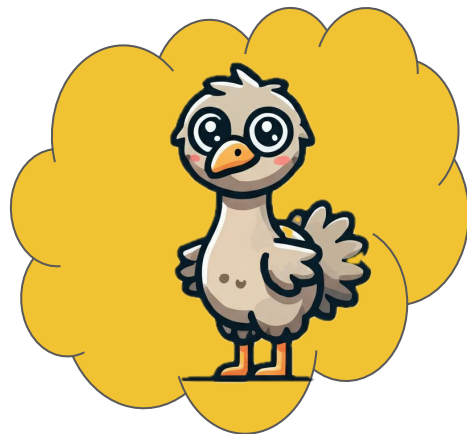
生徒の受験状況・結果を知りたい

- 研究倫理の観点から困難がある
- 受験生の思想信条や、能力を計測したくない
- 参考
 - 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」
- メールアドレスなどを取得しない方式で実施
- 高校教員が生徒の受験状況・結果を把握できないのは仕方ない

慶應義塾大学の倫理委員会への申請

- 申請項目
 - 対象、人数、募集の方法、
 - 個人情報扱い、データの保管期間、実施期間、
 - 実施方法、同意書
 - 同意の撤回について
- 高校生は未成年なので要注意

EMIU情報模試2025秋



EMIU情報模試2025秋受験ご案内

- 日程
 - 2025年10月1日(水) 09:00 から 2025年11月30日(日)
- 方式
 - インターネットにつながったパソコン等を利用した
 - CBT(TAO)による回答方式
 - IRT用の問題は公開しない

EMIU情報模試2025秋受験ご案内

- パンフレット
- 「EMIU情報模試2025秋」の実施について

EMIU 情報模試 2025秋

「情報 I」の模擬試験を受けてみませんか？

高校生のみなさんの
受験大歓迎です！

Evaluation
Methods for
Informatics Competence with a Focus on
University Entrance Examinations



受験期間：2025年10月1日（水）09:00 から 11月30日（日）

費用、対象：無料。高校生に限りです。受験は1回限りです。

受験方法：以下のURLにアクセスして、同意文書を読んだうえで、
同意の意思を表明してください。

受験番号とパスワードを付与します。

URL：https://emiuf.sfc.keio.ac.jp/wp/

この模擬試験・本研究は JSPS 科研費 JP23H00068
「大学入試を中心とした情報分野の学力評価手法の検討」
（代表：植原 啓介 慶應義塾大学）の助成を受けたものです。
https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23H00068/



各都道府県・市区町村教育長
各高等学校長
各中等教育学校長
各高等専門学校長
各関係教育機関所長
各校情報教育担当者
情報教育研究者

殿

「EMIU情報模試2025秋」の実施について

「大学入試を中心とした情報分野の学力評価手法の検討」研究グループ
2025.8.5

時下、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、本研究グループでは、大学入試を中心とした情報分野の学力評価手法を検討するために、「EMIU情報模試2025秋」を実施いたします。つきましては、趣旨等をご理解の上、全国の高等学校・中等教育学校（4年生以上）・高等専門学校（3年生まで）からのご受験について、格段のご配慮をお願い申し上げます。

試験期間：2025年10月1日（水）09:00 から 2025年11月30日（日）

成績確認期間（予定）：2026年1月10日（土）09:00 から

2026年1月31日（土）21:00 まで

対象：高等学校、中等教育学校（4年生以上）、高等専門学校（3年生まで）の生徒

方式：インターネットに接続されたパソコンを利用した、CBT（Computer Based Testing）システム TAO を利用したオンライン試験

詳細：次の URL でご確認ください。 <https://emiuf.sfc.keio.ac.jp/wp/>

主催：「大学入試を中心とした情報分野の学力評価手法の検討」研究グループ

Evaluation Methods for Informatics Competence with a Focus on University Entrance Examinations

研究代表者：植原 啓介（慶應義塾大学）

研究分担者：角田 博保（電気通信大学）、筑 捷彦（東京通信大学）、

高橋 尚子（國學院大学）、辰巳 丈夫（放送大学）、

谷 聖一（日本大学）、中野 由章（工学院大学）、

中山 泰一（電気通信大学）、西田 知博（大阪学院大学）、

萩原 兼一（大阪大学）、坂東 宏和（獨協医科大学）、

安田 豊（京都産業大学）

この試験は、日本学術振興会 科研費 基盤（A）JP23H00068 の研究助成によるものです。

全国学力・学習状況調査（悉皆調査）

CBTでの実施



全国学力・学習状況調査(悉皆調査)CBTでの実施

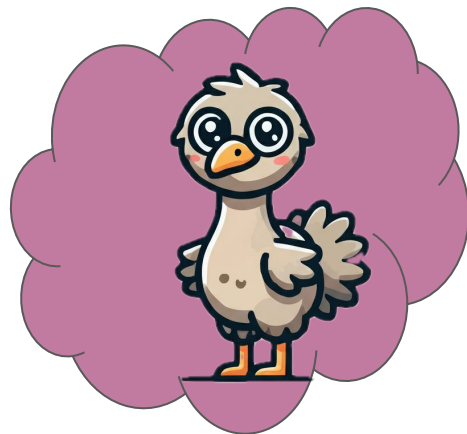
- 義務教育の機会均等とその水準の維持・向上の観点から、
 - 全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る
 - 学校における個々の児童生徒への学習指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
 - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(参考)今後のCBT化の工程表(案)

			2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)
教科調査 (悉皆)	小学校	国語	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT サンプル問題 による準備	CBT	
		算数	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT		
		理科		PBT			PBT		サンプル問題 による準備	CBT
	中学校	国語	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT サンプル問題 による準備	CBT	
		数学	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT	PBT		
		理科		PBT		サンプル 問題に よる準備	CBT			CBT
		英語			「話すこと」 をMEXCBT で実施		サンプル問題 による準備	CBT		
質問調査 (悉皆)	児童生徒		小規模実施 (約1万人)	中規模実施 (約20万人)	大規模実施 (約80万人)	令和6年度より全面オンライン方式に移行済				
	学校									
			平成28年度よりオンライン方式に移行済							
経年変化分析調査 (抽出)			PBT			PBT CBT(半数)			CBT (全面)	

※調査設計や出題、結果返却については、全国学力・学習状況調査の目的を今後より確実に達成する観点から、不断の見直しを続けていく。

EMIU情報模試2026 (予定)



G4: EMIU情報模試2026(時期未定)

- 次はどうします？というのがこのグループの観点
- 2025春、2025秋(まだ実施中)の反省より改善すべき点
 - 受験者の属性がわかるように年度またぎは避ける
 - 受験者が増えるように時期を選ぶ
 - 受験が終わったらすぐに成績がわかる仕組み
 - CBTならではのメリットを知ってほしい